君の辛さと幸せ…

ｒＹ０

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
君の辛さと幸せ…

【Nコード】
N7484C

【作者名】
rY0

【あらすじ】
中学3年の遼一と夏帆は中学1年の頃から付き合っていたが遼一は夏帆の病気に2年間気付かないでいた

俺は全く知らなかった…
気付いてあげられなかった。。
ゴメン夏帆…
夏帆の重い病気も知らずに…

「遼一のバカ…なんでもっと早く気付いてくれないのよ。
ずっとずっと淋しいかったんだから…」
「ゴメン……」
「ゴメンで済まさないでよ…」

夏帆の母親は担当医に聞いた。
「後どれくらいですか…？」
「残り1ヶ月もつかですね…夏帆ちゃんが頑張れば2ヶ月いけるかいけないかくらいです。」
「そうですか…」
俺は夏帆のお母さんに言った。
「しばらく2人にしてもらっていいですか？」
「うん。かまわないけどどうかしたの？」
「いやたいしたことではないんですけど…
夏帆と話たくて。」
「全然いいわよ。行ってきてやって？」
「ありがとうございます。」
と言って俺は夏帆のところまで走った。

ガラガラ……

「夏帆大丈夫？？ちょっとイィ？」
「うん…イィよどうしたの？」
「ううんたいしたことぢゃないよ。」
と言って夏帆のベットの隣に座った。

「いきなりで悪いんだけどさ…
目つぶって？」
「イィけど何？」
「いいからさ…早く」
「う…うん。」と夏帆は目をつぶった。
俺は決めていた。
夏帆が死ぬ前に一度でもキスしてあげようと…
そして目を閉じ唇をつけた。
夏帆はとても恥ずかしそうにしている。

俺はその時の時間がとても短く感じた…

そして1ヶ月と半月経った…
夏帆は逝ってしまった。

俺は涙が止まらなかった。
何日も何時間も泣いたが
涙はとまることはなかった…

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7484c/

君の辛さと幸せ…

2010年11月2日03時59分発行